みいけ

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話③3033番
③3034番
編集兼発行人　山下　開
年間600円　送料共

本紙御購読の皆さんに

本紙はCO闘争による号外発行のため、七月一日号と同月十六日号を休刊致しました。八月一日号と十六日号を、それぞれ八ページにして一応埋め合せすることができましたが、その間ご迷惑をおかけしましたことをおわび致します

このままでは……またやられる

いままで以上に苦しい闘いがあるはず

CO家族の会　高木アヤ子さん

抗議行動があつていいはず

私たちは特別立法のたたかいのころが一番緊張していたし、やりがいがあった。

法律ができて支部長から内容説明があったが、「解雇制限、前収補償」などがこのなかに入っているからといわれても、なんだか物足りないような気がした。

条文にうたっていないのに、会社や政府が本当に採用してくれるのかどうか心配です。

組合からもお盆すぎからまたいままで通りたたかわなければならないので、そのつもりで……といわれていたが、もう八月も終りなのに何もいってこない。会社との交渉がどうなっているのか、労災病院の正常化も安河内所長のおかげで決裂したとか、会社へも安河内へも私たちのつき上げが必要ではないのですか。

少しずつでも何かたたかわないとやりきれない気持です。

三井の態度を訴えよう

特別立法で自民党を一歩でも譲歩させたのは世論の支持があったからだと思います。

しかし、市民の人たちも私たちがだまっていたら、法律ができたのでうまくいっているのだろうとしか思わないのではないか？

三井がいかに法律もなにも守らない会社であるかということを、みんなに知らせる必要がある。

二審、三審がすんでから、などといっていてはもり上がりは作り出せない。

ぬくもりのさめないうちに、いまこそ私たちはたたかわなければいけない思といます。

もうダマされん

いままでが私たちのいろいろの約束が政府や三井からどんどんひっくり返されてきた。私たちの一番の要求である解雇制限などが明文化もされていないのに、こんなにじっとしていたら、またひっくり返されそうです。

たたかう以外に、生きるハリはない

CO家族の会　Kさんの話

法律は散水車？

CO法ができて私たちはよろこばんなんかもしれんけど、CO法は散水車のような役割をはたしているような気がしてなりません。

CO法の中味はいまからかちとっていかねばならないのに、私たちが三年何カ月もかかってまきおこした世論が特別立法ができたということで、一度にしずまってしまったように思います。

どんなに政府や資本家たちが、散水車で水をまいても、私たちはつねにほこりをたてるように努力しますが、世間の人たちも、ぬいわくがらずに、私たちがつねにたたかっているのだということをわかってもらいたいと思います。

私たちは主人の体をこんなにし私と家族の幸せをうばいとったものにたいするたたかいだけが生きるハリです。

私たち家族のなかには、タスキをはずしてしまうと、CO中毒の夫との間の夫婦生活につかれてしまうということが出ています。

奥さんたちが参ってしまう。一度つまづくと生活の重みと夫婦生活の重みで立ち上がれなくなりそうです。会社や政府の方は双眼鏡や望遠鏡で、私たちの状態をウノメタカノメでみているのだから、私達が少しでもバテルのを待っているじそれはすぐわかると思う。

なにか行動をおこすか、または学習会などで心の持ち方をはっきりと学ぶ必要があると思います。

わずかな金で片付けられようとした

新労組の一CO家族の話

〝年だから…〟という医者

主人と最近とくに物忘れがひどく、おなじことをなんどもいわなければすぐ忘れてしまう。買物一つたんでも、それをしてくれるのには何日もいわなければ忘れている。会社の病院の先生は「人間は物忘れくらいありますよ」といって、とりあってくれない。

特休があるまで

いまは坑外で転場復帰訓練をしていますが、十月からは坑内に下がらなければいけないそうです。こんな体で、とても十九万以上出勤はできないので、いま五十くらい持っている特休で出勤方数をうめあわせていく以外にないと思います。

一人だけ会社のやり方に反対しても、新労組の幹部からニラまれるばかりなので、だまっているより仕方がない。

とても停年までは無理なので、せめて息子が高校を出るまで（あと二年）はクビがつながってくれればと思います。

坑底座り込みに感謝

私のとこは息子の就職のことでやむをえず第二にいきましたが、いまでも本当の労仂者の姿は三池労組だと思います。

坑底に座り込んでまでCO法をかち取っていただき本当にたすかった。あれができなければ十万円位の金で片付けられるところだった。

指が痛み、手がはれ背がうずく

本所統計課にもパンチャー病

銀行や会社の統計事務に電子計算機が導入された結果、統計事務にたずさわる労仂者にパンチャー病（ケンショウ炎）が多く発生しだした。

三池炭鉱にも本所統計課に電子計算機が導入されて以来、キイパンチャー病が発生していることがこのほど本所支部青婦部の調査の結果、明らかとなった。

一方、会社側はCO患者を「組合原性病」というレッテルで、ほうむりさろうとしたごとく「本人の神経痛だ」といって、私傷病でとり扱っている。（青婦部本所支部機関紙「ほんしょ」第十五号より）

このままでは全員かかる

苦痛訴える新労組員

一日に何千、何万回となくパンチを打ちつづけるパンチャーは、指の中のスジとそれをつつんでいる腱との間に炎症をおこし、指から腕、肩と神経をつたって激痛を感じ、腕がうごかなくなる転業病である。

腕がはれあがる

Aさん（新労組員）の話

症状は指がまがり、手くびからひじ、背にかけて激痛があり、腕全体が大きくはれあがりぜんぜんうごかなくなりました。

昨年三月に突然発病したもので病気がでる前の日までパンチを打っていました。あくる日、急に動かなくなり、自分の手で下着さえもさわれないくらいの痛さです。

それ以来、六ケ月間、自宅で治療をし現在は出勤はしていますがパンチは打っていません。

神経痛で片づけられる

Bさん（新労組員）の話

今年の三月ごろから手の痛みを感じ、手がビリビリしびれるようになりました。四月ごろから痛みがひどくなり、手に力が入らず茶わんを落すこともあります。

Aさんの例があるので、パンチを打つのはひどくなる前にやめました。

もし私の手が動かなくなったら寝たっきりの母の看護がされなくなるので心配です。

いまも毎日通院しているけれど夜など肩が痛くてねむれなかったこともある。仕事の方も電子計算機が入ってパンチする量も何倍にもふえているので恐ろしい。その上、私の病名は神経痛ということにしかなっていないのです。

このままではパンチする人はみんなケンショウ炎になりますヨ。

なにもしてくれない新労組幹部

Cさん（新労組員）の話

こんな転場にくるもんじゃないですよ。いま残業を月に十時間していますが、それも一日で夜の八時までもすることがある。そんなときは体がクタクタになって、帰ってからはゴロリとたおれるだけです。体がきつい。

以前から新労組の執行部に実態をいっているのですがなにもしてくれない。なんとかしてくれないとどんなことになるかわからないですヨ。

本人たちにも了解してもらっている

うそぶく人事係長

現在では二十七名のキイパンチャーが本所統計課にはいるが、そのほとんどが極度の疲労をうったえ昼休みなどはグッタリとなって昼寝している始末である。

女性が中心の転場で妊娠中の人もあり流産の可能性もあり恐れられている。

一方、この問題を追及した三池労組本所支部に対して、本所人事の松尾係長は

「これは転業病ではありません医者の診断も神経痛ということになっており、本人たちにも了解してもらっている。あんたたちにいろいろいわれるすじ合いではない」と返事をしており、八百余名にものぼるCO患者を「仮病」として片づけようとした三井と冷酷無ざんさをそのままあらわした態度をとっている。

本所統計課の部屋は暗く、暑苦しい。この中で約30名近い婦人たちがクタクタにきたわれる。

新年度に向って

主婦会会長　久保時江

さきの定期総会で、三期目の会長をさせていただくことになりました。

私は、三川鉱大爆発で犠牲にされて死んでいった人々の三年忌を迎えた時から会長をさせていただいていますが、全く無我無中で過ごしてきたように思います。過ぎし日の出来事を思い感慨無量です

運動方針により、反合理化・反戦平和のたたかいを基礎に、みんなで取り組み、夫たちの転場に於ける資本攻撃にも、ともにたたかうよう努力してまいりました。

就労以来、冷酷極まりない余りな低賃金と、物価高に追いつめられた生活苦を、少しでも支えようと願い、内転が後をたちません。合理化攻撃に耐えぬくための内転であることを確認しながらも、内転のことのみに目を奪われ、主婦会活動は不十分でした。

それでもあの爆発から今日まで全国の皆さまに支えられながら、生命を守るたたかいとして、CO中毒法制定のたたかいに立ち上がってまいりました。国会の院内外を通じての活動、山元に於ける抗議行動、そして主婦の坑底座り込み、三川鉱鉱長室の座り込みなどが大きな力となり、今次国会で一応法律化することができました。

このたたかいは終生忘れることはできません。

一応立法化には成功しましたものの、中身についてはこれからが大きなたたかいとなります。粘り強い組織の力を発揮して、今後も主人たちとともに頑張らなければできない使命があります。

物価はどんどん上がるし、戦争の準備は着々進められ、ベトナムの戦火は日増しに拡がり、お父さんたちへの労仂強化は、ますますきびしい低賃金とは逆に容赦なく加わっています。

私たちはいまこそ、低賃金と労動強化で苦しむお父さんたちの生命を守るために、立ち上がらなければできません。組織が分裂して早や七年の歳月が過ぎましたが、現在では第二組合のなかにも不平不満が増大しています。やがて統一できる日が一歩一歩近づいていることに、自信と確信を深めています。私たちは、正しい歴史を築きあげなければなりません。

苦しかったこと、つらかったこと、いろいろな思い出を残して、新しい年度に向かってたたかっていきたいと思います。不十分なことが多いと思いますが、昨年にもましてよろしくご指導いただきますよう、お願い致します。

主婦会の皆さまのご健康を、心ひそかに祈り致します。